

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お元気で新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は、私の市長5期目においてフルスケールで取り組む最初の年となります。生まれ育った苫小牧の明日に向かって誠心誠意、全力で市政運営にあたってまいりたいと考えておりますので、報道機関の皆様には、報道を通じた応援、支援をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

さて、年頭にあたり、私の市政運営に向けた思いの一端を申し述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、これまでも感染状況に応じた対策に努めてまいりましたが、未だ予断を許さない状況にあります。

現在は、重症化を防ぐべく、オミクロン株対応ワクチンの接種を実施しておりますので、ワクチン接種を希望される方におかれましては、早めの接種をお願いいたします。今後も引き続き、市民生活に支障が生じないよう「感染拡大防止・地域経済対策・市民の健やかな日常」の3つの重点軸のもと、各種施策にスピーディーに取り組むとともに、社会経済情勢の変化を捉え、アフターコロナを見据えた施策展開に努めてまいります。

4月の新年度からは、「CO₂CO₂（コツコツ）いこう♪次世代のために」をスローガンに「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！」にチャレンジしてまいります。ゼロカーボンシティ、そしてゼロごみのまちの実現に向け、市民・企業市民とともに官民一体となって連携・協働しながら様々な事業を企画し、積極的に取組を進めてまいります。

さて、令和5年は本市が平成25年に男女平等参画都市を宣言してから10周年という節目を迎え、本日から新たにパートナーシッ

プ制度を開始いたします。性別にかかわらず、互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる男女平等参画社会の実現を目指してまいります。

また、本市では6年ぶりとなるスピードスケート及びフィギュアスケートの大学日本一を決める第95回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）が本日より開催されます。本市にゆかりのある選手も出場されますが、選手の皆様には、最後まで悔いのないよう全力で競技に臨んでいただき、多くの市民に勇気と感動を与えていただくことを期待しております。

4月には、苫小牧港の開港から60周年を迎えます。昭和38年の第1船入港から、本市の発展とともに、北海道の経済活動を支える港湾として、大きな役割を果たしてまいりました。苫小牧港が歩んできた歴史の重み、果たしてきた役割などに触れていただく機会を創り出す取組を記念事業として実施し、苫小牧港のさらなる魅力の創出に努めてまいります。

また、同じく4月には、植苗小中学校が義務教育学校として開校いたします。義務教育学校は小学校、中学校の9年間の教育を一貫して行う学校であり、より柔軟に小規模校のメリットを活かした指導に取り組むことができ、児童生徒一人一人の成長に合わせたきめ細かな指導を実現し、教育環境の充実を図ってまいります。

夏には、いけまぜ夏フェス in 苫小牧が3度の延期を経て開催される予定です。全道各地の障がいのある児童や、その家族が一堂に会する交流の場であることから、多くの方の参加、協力を通じて、ふくしのこころの機運醸成につなげていきたいと考えております。

7月から8月にかけては、令和5年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）のソフトテニス及びテニス競技が本市で開催されます。北海道大会は36年ぶりの開催となりますが、関係機関と連携を図りながら大会の成功に向け万全を期してまいります。

8月には、かつて勇払原野の開拓に入った八王子千人同心の縁に

より、本市と八王子市が昭和４８年に姉妹都市の盟約を締結してから５０周年を迎えます。これを機に記念事業を開催し、八王子市との絆をより一層深めるとともに、同市との長い関わりを市民が改めて感じる機会を創出してまいります。

最後になりますが、今後のまちづくりを進める上での総合的な指針となる苫小牧市総合計画第７次基本計画の運用を４月から開始いたします。時代の移り変わりとともに、本市を取り巻く環境も大きく変化しており、難しい市政運営が求められますが、理想の都市「人間環境都市」の実現に向け、市長としての使命感をもって未来につながるまちづくりを進めてまいります。

今年１年が明るい話題の多い年になるよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

今年も１年間よろしくお願いいたします。